

学校統合後の 埴川小の活用方法は



水木 壽保 議員

質問 埴川小学校の教育環境はとても素晴らしく、施設も充実し、何より緑が多く地域住民に守られてきたところである。統合後の活用方法は、
答弁(教育長) 埴川小学校は教育環境として素晴らしく、明治10年に創立し、137年の歴史と優秀な人材を輩出し、学びの館として大きな役割を果たしてきた。伝統のある学校が「統合」や「廃校」の言葉を聞かされた時に、地域の方々の気持ちについては、心遣いは察して余りある。

質問 埴川小学校の活用の具
体策に関し、早めに協議を始める必要があると認識している。
**町と地域住民、各種団体などから幅広く要望や提案を頂き、協議していく場の設置が必要となるが、校舎の活用方法については町や地域とも大変重要な問題であり、統合の後時間をおかず具体的に化していかなければならないものと考えている。
再質問** 教育施設として利用してはと考えるが、教育長の活用の考えは。
答弁(教育長) 埴川小学校の活用について様々な意見の中から民俗資料館や放課後児童クラブ、埴川小学校についてはそういう意見が非常に多い。そういうことに活用することも可能かと考えている。

質問 県では少子化の要因である未婚化・晩婚化対策のため、出会いや結婚を希望する独身をサポートする、出会い結婚支援活動を行うボランティア活動がある。当町でも現在農業や他の仕事で頑張っている独身者のため、結婚支援をし、活力ある町づくりのためには是非必要と考える。地域内には独身者が多く親から何とかして欲しいとの声も多いので、「世話焼きさん」を各地域に置いてはどうか。
答弁 旧峰浜村では平成2年度に「峰浜村農業後継者結婚相談所」を設置し、結婚相談員48名を各地域に委嘱、結婚に関する情報の収集、相談等、花嫁、花婿の縁結び運動



を展開したが、平成9年度以降、相談実績がないことから平成16年度末で廃止している。今年度は「八峰町結婚サポーター連絡会議」を立ち上げ、婚活に関する情報交換や、出会い・結婚支援イベントなどについて話し合う計画だが、現在の登録者は3名と大変少ない状況である。各地域に「世話焼きさん」となる結婚サポーターを配置するためには、町内在住サポーターの登録数を相当数増やさなければならぬ。今後も各種会合や町広報等を活用してサポーターを募集していく。

多くの退職者による 課再編の必要性は



菊地 薫 議員

質問 来年以降、多数の職員の退職者がいるが、課の再編が必要では。
答弁 行政改革大綱に定められている「住民ニーズに対応した組織づくり」ではこれまで4回機構改革を実施し、課や係の見直しについては毎年検討し、実践もしている。今後予定される定年による退職者の数もハイペースの状況が続くが、少ない人数で町民サービスの低下にならないよう、効率的な行政運営をしていくためにも機構改革は

質問 滝の間の茶の沢団地から白神体験センターまでの国道に歩道設置の考えは。
質問 滝の間の茶の沢団地から白神体験センターまでの国道に歩道設置の考えは。
答弁 ハタハタ館や白神体験センター等の観光施設があり、国道を徒歩で来館する利用者や交通量も多いことから、今年の7月に行われた県との

茶の沢団地から 体験センター までの歩道の 設置の考えは

別海町との交流は 今後の方向は

質問 北海道の別海町との交流は、今どういう状況か。今後の方向はどうか。
答弁 平成18年に町文化財保護協会による別海町訪問、翌年には町長と教育長も訪問し、友好都市交流を提案するも、前向きな返事を得ることはできなかった。別海町は現在



昨年の八森・峰浜中生徒が別海町を視察した。加賀家文書館を視察する生徒たち。

4か所の市と姉妹都市提携を結んでいることから、交流を働きかけるにしてもお互いにとのようないかなど期待できるかなど難しい点がある。
今後については、当分の間は現状のままとし、両町の状況に変化が生じ、互いに必要が生じた時に改めて検討した方が良いと考えている。
※旧八森町時代に加賀家文書を縁として別海町の中学生の国内研修などの交流が10年ほど実施された